

病院の理念 地域とともに世界を視野に  
信頼される最善の医療を

基本方針 1.質の高い安全な医療 2.救急医療 3.国内外の医療救援活動  
4.地域連携 5.教育・研修・研鑽 6.患者・職員満足度の向上



福岡赤十字病院

日本赤十字社

## 迎春

新年明けましておめでとうございます。

昨年4月は電子カルテ本格稼働で業務の遅滞を心配しておりましたが、さすが当院職員は眉間に皺寄せることなくあっさりと受け入れ、先進のIT環境を楽しんでいるかのようです。ただ大病院におけるIT関係の費用は膨大です。加えて一昨年からの診療報酬マイナス改定と消費税の3%アップは、当院含め我国の中～大規模病院の経営に深刻な影響を与えています。

このような不満を解消すべく、昨年10月には病院新築の最終章として全職員あげて病院機能評価を再受審しました。今回の3rdG評価は、これまでの建物設備や規定など病院運営システムの評価に加え、実際の患者さんの診療の流れの評価、つまり診療実務能力の評価にも重点がおかれ、職員の職務実践における意識改革に大いに役に立ちました。



院長 寺坂 禮治

医療は冬の時代を迎えていますが、病院は常に進化する医療技術を着実に導入しつつ確実に変化する社会環境に適応し続けなければなりません。職員一同自覚を新たにしております。本年もどうぞよろしくご指導の程お願い申し上げます。

# 小児科

第一小児科部長  
原田 達生

当科で入院診療を行う疾患としては、急性期病院小児科では当然ながら感染症が多数を占め、60～70%が気管支炎や肺炎などの呼吸器感染症、あるいは胃腸炎他の感染症です。そして当科の特徴は専門領域診療として腎臓、循環器、神経疾患分野に特に力を入れていることです。

腎疾患としては、慢性腎炎(IgA腎症、紫斑病性腎炎など)、ネフローゼ症候群の診療にあたっています。学校検尿を契機とした検尿異常の症例が多いのは小児特有であり、必要に応じて当科で腎生検を行い診断から治療まで行っています。難治性ネフローゼ症候群に対する新しい治療薬：リツキシマブが2014年8月から使用できるようになり当科でも使用症例数が増えています。数年間ステロイド依存性であった症例も中止可能となり、新しい治療に対する手ごたえを感じています。しかし副作用も多い薬剤でありその使用適応には十分な検討が必要です。

循環器疾患としては、適切な治療なしでは冠動脈瘤などの心臓血管後遺症をおこすことが多い川崎病を、最近では年間80人前後の入院を受け入れています。標準的治療の免疫ガンマグロブリン(IVIG)療法により85%が治癒しますが、2回のIVIG治療でも改善しない場合は、九大病院小児科に転院しインフリキシマブ静注あるいは血漿交換療法をお願いしています。十分な全身観察や血液検査、心エコー検査により早期にIVIG不応かどうかを判断し、9病日以内に冠動脈病変の進展がないうちに転院させ、上述のサードラインの治療を行うことが重要であると考えています。

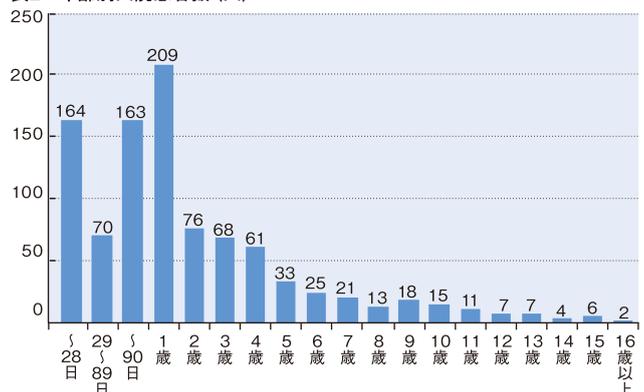
神経疾患としては、けいれん重積などの神経救急疾患の入院が目立ちます。乳幼児の有熱時のけいれんは大部分が熱性けいれんですが、脳炎や脳症との鑑別のためにMRI検査や脳波検査を行うこともあります。時にその判断が容易でない症例も少なくありません。神経救急疾患以外では発達障害の診療が増えています。その受診の契機は言葉の遅れや不登校など様々です。療育機関や学校と連携しながら家族と本人に必要な環境調整や指導を行っていますが、特に家族背景が複雑で摂食障害などの二次障害を抱えている症例が増えており診療に苦慮しています。

当科では新生児から中学生までのほとんどの疾病に対応し、その多くは当科で入院診療を行い、疾患や病状によっては当院の他科部署と協力のもとに、あるいは他の病院への紹介を含めた連携により、できるだけ早期に病児が後遺症なく通常の健康な生活に戻ることを目標としています。

表1

入院患者数	973
新生児疾患	164
低出生体重児/早産児	78
糖尿病母体児/低血糖	26
仮死/吸引症候群	27
他	33
気道感染症	365
消化管感染症	83
その他の感染症	82
けいれん性疾患	54
尿路感染症	31
ネフローゼ症候群・腎炎・腎症	52
川崎病	57
他	85

表2 年齢別入院患者数(人)



地域との連携を深めるクロスシティカンファレンス

# 感染症内科

感染症内科部長  
石丸 敏之

当科は2011年10月に当院に誕生しました。当時は1人体制で感染管理認定看護師1名と一緒に、感染管理の仕事を主体に活動を開始しましたが、徐々に仕事も増えてついに2015年4月からは3人体制となり、また感染管理認定看護師も2名となりました。これにより他科からの感染症のコンサルテーションにも十分対応できるようになり、開設当初から目指しておりました感染症内科としての基盤がほぼ確立できたと考えています。

主な業務は、

- ①感染症コンサルテーションへの対応
- ②院内感染対策
- ③2類感染症(新型インフルエンザやMERS等)への対応
- ④一般診療(肺炎、誤嚥性肺炎患者が中心)
- ⑤職員の感染対策といった所です。

日本における感染症診療は今まで、肺炎は呼吸器内科、感染性腸炎は消化器内科、胆嚢炎は肝臓内科ないしは外科、腎盂腎炎は泌尿器科というように、それぞれ臓器別の専門科で対応されてきました。これらをすべて感染症内科が対応する事は症例数からみても不可能ですし、気管支鏡やファイバースコープ等の技術も持っていません。この為、感染症内



感染症内科スタッフ(左から中村医師、石丸部長、鎌水医師)

科は他科で感染症治療を行う際の治療についてのアドバイスや、治療開始後も効果が今一步といった難治症例、あるいは不明熱の原因精査といった症例のコンサルトへの対応が主業務と考えています。当院では患者さんの高齢化や、救急車の受け入れ数が多いこと等から誤嚥性肺炎の患者さんも多く、呼吸器内科、総合診療科と感染症内科で分担しながら加療しています。感染症外来・入院では、不明熱や海外から帰国後の発熱疾患等の診療も行っています。

直接皆様のお役に立てることは少ないかもしれませんが、当院に入院された患者さんの感染症治療には関与させていただく事も多くなってきておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



病棟でのカンファレンスの様子

専  
門  
外  
来

# CKD保存期外来の紹介

(慢性腎臓病)

透析看護認定看護師  
不動寺 美紀

当院は地域の腎センターとして、関連施設の先生方と連携しながら慢性腎臓病(CKD)患者さんへの医療を提供しています。当院では毎年約90~120人の患者さんが新規に透析導入されていることもあり、慢性腎臓病患者さんの相談窓口として看護師による専門外来の一つであるCKD保存期外来を、2009年3月から開設しました。



CKD保存期外来の受診風景

CKD保存期外来は、患者さんやご家族が病気や治療を理解した上でご自分に合った治療を考えていただけるよう、慢性腎臓病と腎代替療法(血液透析・腹膜透析・腎移植)の特徴について情報提供を行っています。開設から6年目を迎え、今年10月までの延受診数は400人を超えました。

患者さんは“いずれ透析になる”という言葉聞いて、不安や悩みを抱えながら外来を受診されることも少なくありません。「これまで受診していたのに、急に腎臓が悪くなって言われても」、「透析治療の話は聞きたくない」と話される方もおられます。CKD保存期外来の担当看護師は患者さんやご家族がどのようなお気持ちなのかをお聞きし、腎臓病の知識やご自身の体の状態をどのように理解されているのかを確認していきます。その上でDVD視聴や透析室見学などを行い、治療の具体的なイメージがつかうよう分かりやすい言葉で説明します。また、腎機能低下を緩やかにできるように食事療法や薬物療法、日常生活上の注意点などの療養指導と、仕事や家庭背景、経済面などでの不安や悩みをお聞きしながら、社会資源の紹介や相談窓口や専門職への紹介も行っています。「少しでも保存期の期間を延ばすよう頑張る」、「透析になったら人生おしまいと思っていたけれど、そうじゃないのですね。」と、患者さんの気持ちの変化するなど、病気と向かい合う動機づけになることもあります。

CKD保存期外来では、受診前後に主治医と担当看護師間で受診目的や受診時の患者さんの反応や今後の治療方針について情報交換・共有を行います。また、毎月の定例会と合同カンファレンスを通じて、腎臓内科医師、内科外来看護師との情報共有を行い、継続看護につなげられるよう取り組んでいます。受診された患者さんやご家族が、慢性腎臓病と付き合いながら、今後の療養生活をご自身で考えていけるお手伝いができたらと思っていますので、これからも地域の先生方のご協力をお願いいたします。



外来受診状況を透析室合同カンファレンスで共有

# 病院コンシェルジュはじめました!

病院コンシェルジュとは、来院された方やお困りの患者さんなどに総合的なサポートを行い、安心や満足していただけるサービスを提供する、医療機関での接遇のスペシャリストです。

患者さんと同じ目線に立って、患者さんの想いに寄り添い、質の高い患者サービスの提供に努めてまいります。

本館1階総合受付周辺にありますので、お気軽にお声掛けください。



病院コンシェルジュ:この制服が目印です。



地域とともに!

## 登録医紹介

当院の基本理念である「地域とともに世界を視野に 信頼される最善の医療を」を行うための心強いパートナーとなる登録医の先生方をご紹介します。『田中レディースクリニック』です。

## 医療法人 田中レディースクリニック

対象疾患:婦人科疾患全般  
得意分野:婦人科

先生に  
インタビュー

### 当院との地域連携について どのようにお考えですか?

福岡赤十字病院は長年にわたり、中核病院として地域医療に貢献されており、その的確、かつ迅速な診断や加療には我々、医師のみならず患者さんからも信頼されている病院と感じています。クリニックで行うことが出来る検査、加療には限界がありますが日赤に紹介できることで安心していきます。また引き続き加療が必要な場合でも的確な情報提供を行ってもらい、その後の加療に大変助かっています。

### アピールポイント

女性のライフスタイルは、現代社会において多様化し、それと共に女性特有の悩みも多様化しており、一つの回答でなく、その方の現在の状況に出来る限り寄り添った選択肢を導き出すように心掛けています。

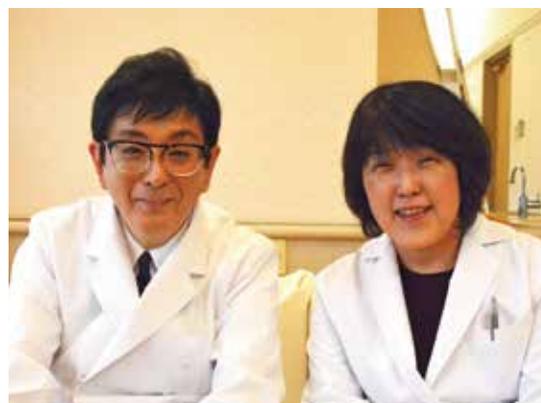
思春期から老年期まで女性はその年代において様々な女性特有の疾病に遭遇される機会がありますが、婦人科は昔から受診に抵抗がある診療科であり、特にご年配の方は躊躇される傾向がありますが、当院は男性医師と女性医師の2名体制でお気軽にご相談していただける環境を整えています。女性医師の受診希望にも対応可能です。お気軽におっしゃってください。

### 地域の皆さまにメッセージをお願いします。

開業当初20代であった方が、更年期の相談で来られるようになりました。これからも地域のかかりつけ医療機関として微力ながら患者さんのお役に立てるよう努力していく所存です。女性特有の病気で不安に思っている方は悩まず、当院にご相談ください。

### 特徴

婦人科疾患全般のご相談、子宮がん検診、避妊法などを中心に診療を行っています。



左が田中誠司院長 右が田中恭子副院長



温かみのある受付と待合ロビー

### 基本情報

- ◎ 院長: 田中 誠司
- ◎ 副院長: 田中 恭子
- ◎ 住所: 福岡市南区大橋1-23-6 (〒815-0033)
- ◎ TEL: 092-542-4165
- ◎ 診療科目: 産婦人科(現在、婦人科主体)
- ◎ 診療時間: 午前: 月~金 9:00~12:40  
土曜日のみ完全予約制 9:00~13:00  
(受付時間) 午後: 月火木金 14:00~17:40  
女性医師の診察は午前のみ
- ◎ 休診日: 日・祝日・水曜日午後

# 福岡赤十字病院外来診察担当医一覧表

○：新患若しくは再来 ▲：午後再来(予約のみ) ●：(予約のみ) 平成28年1月1日現在

科別	氏名	月	火	水	木	金	専門分野	備考
総合診療科	澤山 泰典	○	●	▲	▲	○	内科一般・生活習慣病・睡眠時無呼吸症候群	部長
	居原 毅	○	○	交替制		○		
消化器内科	柿本 聖樹	○	○				消化管(食道・胃・大腸)	部長
	平川 克哉	○	○		▲			
	工藤 哲司		▲	○				
	藤岡 審	▲				○		
	平田 敬	○				▲		
腎臓内科	原 裕一				▲	○	腎臓	副院長 部長
	平方 秀樹		▲					
	満生 浩司	▲	○					
	黒木 裕介			▲		○		
	中川 兼康	○	▲					
糖尿病・代謝内科	伊豆丸 堅祐	○	▲				糖尿病	部長 副部長
	荒瀬 北斗	▲				○		
	吉田 祐子							
	筒 信隆	●			●			
	佐々木 伸浩		○			○		
内分泌内科	菊池 洋平	○		●		○	内分泌・糖尿病	部長
	川本 徹		●		●			
	小森田 祐二					●		
循環器内科	中川 瑞穂	○	○			○	循環器	副院長 部長 部長 副部長 副部長
	目野 宏	○	○	●	●			
	古財 敏之	○				●		
	塚 浩二					○		
	林谷 俊児		●	○				
	松川 龍一					○		
	本田 修浩					○		
	甲木 雅人			●				
	出口 裕子							
	大内 洋	○				○		
呼吸器内科	白石 祥理	▲		○	▲		呼吸器一般	部長
	神宮司 祐治郎							
	森崎 隆史							
肝臓内科	渡邊 洋	○	○			○	肝疾患一般 ※木曜日は隔週交代制	部長 副部長
	西澤 新也	●				交替制		
	久能 志津香							
血液・腫瘍内科	土屋 直壯	○					血液疾患一般、固形腫瘍の化学療法※水曜日は交替制	部長
	谷本 一樹	●	○			交替制		
脳血管内科	坂本 佳治						脳卒中	部長
	藤井 健一郎	○	○					
	三本木 良紀	○						
膠原病内科	山中 圭			▲		交替制	膠原病	部長
	坂井 翔建			▲				
	井上 靖	▲	●	○				
	中野 未来				▲			
	石丸 敏之		●			○		
感染症内科	中村 啓二				●		感染症一般 ※水曜日は隔週	部長
	鎌水 彰				●			
外科	寺坂 禮治						一般外科、 消化器外科、肝胆脾外科、 乳腺・内分泌外科、 呼吸器外科、 腹腔鏡下・胸腔鏡下手術、 腎移植、腎不全外科、 ERCP、PTCD、EST	院長 副院長 部長 部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長
	中房 祐司	○	○			○		
	本山 健太郎	○	▲			○		
	小島 雅之	○				○		
	橋爪 健太郎	○				○		
	山元 啓文	○				○		
	井上 重隆	○				○		
	家永 淳	○				○		
	堤 宏介	○				○		
	寺坂 壮史	○				○		
	松田 諒太	○				○		
	安藤 陽平	○				○		
	久野 恭子	○				○		
	非常勤(乳癌)	○						
	心臓血管外科	河野 博之		▲				
宮本 和幸			○			○		
馬場 啓徳						▲		
神西 優樹								
継 仁		○				○		
脳神経外科	吉岡 努					○	脳神経外科疾患	部長 部長
	平田 陽子					○		
	三木 浩一	●	●	●	●	●		
	福本 博順	●	●	●	●	●		

科別	氏名	月	火	水	木	金	専門分野	備考
皮膚科	竹下 弘道	○	○	○	○	○	一般、尋常性乾癬、アトピー性皮膚炎	副部長
	加来 裕美子	○	○	○	○	○		
眼科	山中 一郎	○	○	○	○	○	糖尿病性網膜症、白内障、緑内障(再来は完全予約制)	部長
	吉山 慶三	○	○	○	○	○		
整形外科	泊 真二	○				○	脊椎・脊髄外科 関節外科・リウマチ・腫瘍 リウマチ・関節外科 膝関節・脊椎外科・一般 外傷・一般 外傷・一般 外傷・一般	部長 部長 副部長
	伊藤 康正	○				○		
	瀬尾 健一	○				○		
	由布 竜矢	○				○		
	安原 隆寛	○				○		
	岡本 重敏	○				○		
	太田 昌成	○				○		
産婦人科	西田 眞 婦				婦	産	周産期、 悪性腫瘍、 良性腫瘍、 腹腔鏡手術	部長 部長 副部長
	遠城 幸子 婦				婦	産		
	衛藤 貴子 婦				婦	産		
	北出 尚子 婦				婦	産		
	蜂須賀 正紘 産				婦	産		
	吉富 智幸 産				婦	産		
	松下 知子 産				婦	産		
	末永 壮賢 産				婦	産		
	吉田 紘子 産				婦	産		
	加治 佐和子 産				婦	産		
小児科	原田 達生		○		○		循環器 腎疾患 一般・腎疾患 一般・腎疾患 一般・神経 一般 一般 神経 循環器(第1金曜日午後のみ)	部長 部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長
	波多江 健		○		○			
	檜山 麻衣子		○		○			
	黒木 理恵		○		○			
	高田 結		○		○			
	尾田 琢也				○			
	黒川 麻里				○			
	非常勤(神経再来)				●			
	非常勤(神経再来)					※		
	非常勤(循環器再来)					※		
耳鼻咽喉科	福島 淳一	○			○	交替制	頭頸部外科、耳科手術、 鼻内視鏡手術、 頭頸部再建手術、一般 (再来は完全予約制)	部長 副部長
	賀数 康弘	○			○	交替制		
	竹内 寅之進	○			○	交替制		
形成外科	津田 雅由	○			▲		再建外科・外傷・先天性疾患	副部長
	後藤 健		●		●	○		
泌尿器科	柚木 貴和				○	●	尿路結石、排尿機能障害、 尿路器腫瘍、尿路感染症、 腹腔鏡手術	部長 副部長
	小林 武				○	●		
	白水 翼				○	●		
	溝口 瞳				○	●		
精神科	芝田 寿美男	●	●	●	●	●	一般・行動療法・強迫性障害 (新患・再来ともに完全予約制)	副部長
	非常勤				●	●		
歯科・ 歯科口腔外科	左坐 春喜	○	○	○	○	○	一般歯科、口腔外科 (再来は完全予約制)	部長 副部長
	樺山 哲郎	○	○	○	○	○		
放射線科	盧 徳 鉉						検査依頼(CT・MRI・RI等)のみ・電話予約制	部長 副部長
	井上 昭宏							
	米澤 政人							
麻酔科	江口 明						術中管理	部長 部長 副部長
	迎 雅彦							
	堀江 利彰							
	権 丈 緑							
	津田 幸毅							
	名西 紀子							
	馬場 麻理子							
	秋吉 瑠美子							
	西川 文							
	検査部	中島 豊						
病理診断科	西山 憲一					人体病理一般	部長	
救急科	友尻 茂樹						救急(各種中毒疾患含む)	部長
	川原 加苗							
	荒武 憲司							
	皆川 雄郷							
	村瀬 美奈子							
健診部	田中 道子					循環器	部長	

## ●受付時間 月曜日～金曜日(初診・再診)8:10～11:00

総合診療科	(初診)木曜日のみ内科担当医による交替制です
呼吸器内科	(初診・再診) 月・水・木のみ
心臓血管外科	火・木のみ 8:10～11:00
脳神経外科	(初診・再診) 水曜日は手術日とさせていただきます
皮膚科	(初診) 月 8:10～10:00(火～金は通常通り) (再診) 完全予約制
眼科	(初診) 火・木 8:10～10:00(月・水・金は通常通り) (再診) 完全予約制
整形外科	木 8:10～10:00(月・水・金は通常通り)火曜日は手術日とさせていただきます (初診・再診) 火・木 8:10～10:00(月・水・金は通常通り)
産婦人科	(初診) 火・木 8:10～10:00(月・水は通常通り) 金曜日は紹介患者さんと予約のみとさせていただきます 金曜日の紹介患者さんの受付は、午前10時までです
耳鼻咽喉科	(再診) 完全予約制
精神科	(初診) 月・水のみ(完全予約制) (再診) 完全予約制
歯科	(再診) 完全予約制

患者さんの紹介につきましては地域医療連携室で承ります。

(時間外・土日祝日につきましては夜間受付に切り替えて24時間体制でお受けします)

専用TEL ☎0120-521-993 専用FAX ☎0120-521-992

急患の方はこの限りではございません。

●診療開始時間……午前8時40分

●平日時間外及び休日急患診療(当直体制)

○内科系※ ○外科系※ ○循環器科 ○産婦人科

※当直体制のため必ずしも専門医の診療は受けられないことがありますのでご了承願います

○小児科 平日(祝日を除く) 17時～19時30分

土曜日(祝日を除く) 13時～19時

[備考]急患以外の一般の患者さんにつきましては、土、日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)は休診日です

再来は原則予約制です。出張等で休診する場合がありますので、事前に各診療科にお尋ねください。  
☎092-521-1211(代表)

病院管理者【院長】寺坂 禮治 【副院長】平方 秀樹、河野 博之、中房 祐司、目野 宏 【事務部長】古澤 智久 【看護部長】松永 由紀子

平成28年1月発行(第33号)福岡赤十字病院企画推進課 〒815-8555 福岡市南区大楠3丁目1番1号 TEL092-521-1211 URL http://www.fukuoka-med.jrc.or.jp